

館長のガラストーク

妖精の森ガラス美術館 館長 畠山 耕造

19 世紀から 20 世紀にかけてのヨーロッパのウランガラス

○19 世紀のフランスのガラス産業

1830 年代のボヘミアでの色ガラスの開発はすぐにフランスに伝えられ、シュワジー・ル・ロワ社でウランを使ったガラス製造が行なわれました。高級ガラスの名門バカラ社は 1939 年に半透明な乳白色のガラス“オパーリン”を発表しました。この中にウランを加えたものがあり、ほかにもサン・ルイ社、ル・クルーゾ社などによって生産されました。また、バカラ社は 1843 年に制作したウランガラスに“二色のクリスタル”と名前をつけました。

○オーストリア

1823 年、ヨーゼフ・ロプマイヤーがウィーンに小さなガラス店を開き、上質のクリスタルの販売で実績を積んでハプスブルク家から皇室御用達の称号を獲得します。ヨーゼフの後、息子兄弟のヨーゼフとルートヴィッヒが経営を引き継いで万国博覧会などで受賞を重ねました。ルートヴィッヒが 19 世紀後半に南ボヘミアのアドルフォフとレノーラ、北ボヘミアのカメニツキーシェノフやボルのガラス工場で作らせた作品の中に、ウランを着色剤にしたものが含まれています。

○ベルギーのウランガラス

ヴァル・サン・ランペール社は 1825 年にオランダ国王ウィリアム 1 世の要請を受け、古いシトー派修道院を社用地として購入し創設された名門です。その後、ネーデルラント国王やベルギー国王の庇護を受けながら、19 世紀後半には世界最大規模のガラスメーカーへと成長しました。精緻なカット、吹きガラスの練磨、色彩の開発、酸による加工技術の洗練など、熟練した職人技術を磨き上げ華麗で繊細な作風を誇っています。

1889 年の万国博覧会でフランス・アールヌーヴォーの強い影響を受け、同社の作品も著しくアールヌーヴォー色を強めていきます。この工場で 19 世紀末からウランガラスの生産が行われています。



オパーリンのバイナッブル容器
1860年代 フランス



花瓶2種 1893年ドイツと
20世紀初頭のヨーロッパ



ワイングラス 1930年代
ヴァルサンランペール社

〈展覧会情報〉きらめきのウランガラス—その源流を尋ねて— 2015年7月15日(水)～2015年12月7日(月)

お問い合わせ先 妖精の森ガラス美術館 電話 (0868) 44-7888

知っていますか？ 建退共制度

建退共制度は、中小企業退職金共済法に基づき建設現場労働者の福祉の増進と建設業を営む中小企業の振興を目的として設立された退職金制度です。

この制度は、事業主の方々が、労働者の働いた日数に応じて掛金となる共済証紙を共済手帳に貼り、その労働者が建設業界で働くことをやめたときに建退共から退職金を支払うという、いわば業界全体での退職金制度です。

加入できる事業主…建設業を営む方
対象となる労働者…建設業の現場で働く人
掛金…日額310円

★特長

◎国の制度なので安全、確実、申し込み手続は簡単です。

◎経営事項審査で加点評価の対象となります。

◎掛金の一部を国が助成します。

◎掛金は事業主負担となりますが、法人は損

金、個人では必要経費として扱われ、税法

上全額非課税となります。

◎事業主が変わっても退職金は企業間を通算

して計算されます。

建退共制度の特例措置のお知らせ

建退共では、地震等により災害救助法が適用された皆様に対し、各種手続の特例措置を実施しております。

ホームページ「建退共」に、制度説明用動画、Q&Aなど建退共制度の知りたい情報が記載されています。ぜひ、アクセスしてご覧下さい!!
※詳しいことは、建退共岡山県支部へお問い合わせ下さい。

TEL(086)225-4133

建退共

検索